

ホクコー Dr. オリゼスタークル箱粒剤

■種類名：ジノテフラン・プロベナゾール粒剤
 ■有効成分：ジノテフラン-----2.0%
 プロベナゾール-----25.0%

■登録番号：第22418号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：2002.04.26
 ■性状：類白色細粒
 ■有効年限：5年
 ■包装：1kg×12袋

【特長】

- 抵抗性誘導型殺菌剤オリゼメートと新規ネオニコチノイド系殺虫剤スタークルとの混合剤。
- 育苗箱処理で水稻のいもち病、ウンカ類、ヨコバイ類、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシの同時防除が可能。
- 緑化期から田植直前まで、処理時期が広く使いやすい。

【適用内容】(2014年10月末日現在)

| 作物名 | 適用病害虫名 | 使用量 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 使用方法 | ジノテフランを含む農薬の総使用回数 | プロベナゾールを含む農薬の総使用回数 |
|------------|---|--|----------------|---------|------------------------------|--|--|
| 稲 (箱育苗) | いもち病 ウンカ類 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ イネクロカメムシ もみ枯細菌病 白葉枯病 | 育苗箱 (30×60×3cm、使用土 壌約5kg) 1箱当り 50g | 緑化期～ 移植当日 | 1回 | 育苗箱の 苗の上から 均一に散布 する | 4回以内 (育苗箱への 処理及び側条 施用は合計1 回以内、本田 での散布、空 中散布、無人 ヘリ散布は合 計3回以内) | 2回以内 (育苗箱への処 理及び側条施用 は合計1回以 内) |
| | フタオビコヤガ | | 移植3日前 ～移植当日 | | | | |

【効果・薬害等の注意】

- 育苗箱の苗の上から所定量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とした後、十分灌水すること。
- 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生ずる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
- 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生ずるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
- 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態(湛水深3～5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- ❖ 夏期高温時の使用を避けること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。